

第2次自殺対策行動計画の令和元年度事業実績評価および令和2年度事業計画について

■基本方針1. 関係機関が連携し、総合的な自殺対策をすすめます

・基本施策(1) 自殺の実態を明らかにする

① 統計データ等による実態集計、分析

- ・自殺者数、自殺死亡率、性別、年齢階級別、原因・動機別、職業別の自殺者の状況等の実態を分析し、課題を明らかにする。国や県の情報を収集し比較分析を行う。
- ・景気や雇用情勢、経済等の社会情勢や、いのちや人権についての市民の意識を把握し、課題を明らかにする。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
1 自殺者や自殺をとりまく実態の集計、分析	死亡小票、国や県からの情報をもとに、自殺者や自殺をとりまく実態の集計、分析を行う。国から提供される「地域自殺実態プロフィール」を活用し、分析を行う。	死亡小票、地域自殺実態プロフィール、自殺未遂者のケース分析から実態の集計分析を行った。	1 当初の計画通りに進展した	効果的な自殺対策の推進のため、自殺死亡者の現状や自殺未遂者の傾向について把握することができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

② 相談・支援等の実態の分析

- ・相談窓口等における自殺念慮・自殺未遂者、遺(のこ)された人等への対応について事例検討等を行い、自殺の実態を明らかにする。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
2 自殺念慮、自殺未遂者、遺された人への個別支援からわかる実態の分析	各相談担当にて自殺関係対応として、個別支援・ケース会議などを随時実施する「湖南いのちサポート相談事業」(県自殺対策推進センター事業)等による自殺未遂者支援のケース会議を開催。	湖南いのちサポート相談事業(県自殺予防情報センター事業)等による自殺未遂者支援として、18件(のべ28回)のリスクアセスメント会議を開催。各相談担当にて自殺関係対応として、個別支援・ケース会議などを随時実施した。当課相談件数：精神保健相談210件 うち自殺関連50件(実人数)	1 当初の計画通りに進展した	「湖南いのちサポート事業」等による支援を随時実施し、個別支援・リスクアセスメント会議等を実施した。関係課会議や自殺対策推進会議において、多機関と自殺未遂支援の状況を共有し、自殺未遂に至った背景等の分析を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
3 市内大学との情報交換会の開催	市内大学との情報交換会を開催し、若者の自殺や大学での支援について実態把握を進めるとともに、必要な対策について検討する。	市内大学と自殺対策に関する情報交換会を1回実施した。	1 当初の計画通りに進展した	若者の自殺や、大学での支援体制(関係機関との連携等)について情報を共有し、実態を把握することができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

・基本施策(2) 関係機関が情報を共有し、連携して自殺対策をすすめる

① 関係課および関係機関との情報共有、施策の方向性の検討

- ・「草津市自殺対策推進会議」を開催し、関係機関と共に自殺対策に関する情報を共有し、計画に基づき総合的な対策の推進、検討および評価を行う。
- ・「草津市自殺対策関係課会議」を開催し、庁内関係各課が自殺対策にかかる情報を共有するとともに、計画に基づき具体的な自殺対策の施策の推進、検討および評価を行う。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
4 草津市自殺対策推進会議	年間2回開催予定 自殺対策の推進ならびに関係者相互の連絡調整に関する事務を行う。	草津市自殺対策推進会議：2回開催	1 当初の計画通りに進展した	関係機関や市民の立場から多様な御意見をいただき、各機関が情報を共有しながら計画を推進することができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
5 草津市自殺対策関係課会議	年間2回開催予定 自殺の実状についての把握、情報共有および分析を行い、具体的な施策の展開について検討する。	草津市自殺対策関係課会議：2回開催	1 当初の計画通りに進展した	自殺の現状や市の取り組みについて共有し、具体的な施策についての検討や情報交換を行った。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

■基本方針2. こころの健康づくりをすすめます

・基本施策(3) 健やかなこころをはぐくむ

① こころの健康づくりについての啓発

- ・いのちや人権を大切に取る取組を通して、こころの健康をはぐくみ、また様々な機会を通じて、自殺対策についての正しい知識の普及啓発を行う。
- ・産後うつについて正しい知識の啓発を行い、不安を抱える妊産婦を支援する。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
6 精神保健啓発委託事業	精神障害者が安心して暮らせる地域づくりに関わる講演会を開催する。実施は、草津市精神障害者家族会ひまわりの会へ委託して行う。	計画通り業務委託し、今年度は委託先のひまわりの会の30周年事業として、精神保健啓発上映会を開催した。 上映会 日時:令和元年9月14日(土) 第1部 ドキュメンタリー映画「オキナワへいこう」映画の上映 第2部 大西暢夫監督のトークショー 60分 参加者:260人	1 当初の計画通りに進展した	参加者も多く、また、映画の上映、トークショーともに、精神障害者が安心して暮らせる地域づくりの啓発について効果があったと考える。	2 対象者や実施方法を変更して継続	障害福祉課
7 みんなでトーク・出前講座でのこころの健康についての啓発	こころの健康「知ることから始めてみませんか? ~こころと体の不調のサイン~」申込のあった団体等に出向き、こころの健康について講座を行う。講座のチラシを各種団体に配布し、積極的な活用を依頼する。	みんなでトーク:4回実施	1 当初の計画通りに進展した	うつについてや、ストレスの対処について話し、こころの健康に関する啓発を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
8 お出かけドクターとお気軽トーク	草津栗東医師会に委託し、住民の依頼に応じて、健康に関する講話や対話を行う。	実施回数 6回	2 概ね順調に進展した	認知症や心身の健康づくり等のテーマに沿い、派遣医師と参加者が直接話をする機会を設けられた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
9 自殺予防デーの街頭啓発	9月10日~16日(自殺予防週間)内の1日、南草津駅前広場等にて啓発を実施する。	9月11日 南草津駅前広場等にて啓発を実施。部長、理事、副部長、関係課長、自殺対策担当者にて、相談窓口リーフレットとともに啓発物品を配布(1,000個)	1 当初の計画通りに進展した	通勤・通学中の多くの市民に啓発することができた。	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
10 こころの健康づくりの周知啓発	広報、ホームページ、掲示板等にて随時、こころの健康づくりの周知啓発を実施する。	・広報くさつ6月1日号特集記事「たいせつな人のその時、あなたにできること」 ・市ホームページ随時更新	1 当初の計画通りに進展した	多くの市民の目に触れる広報紙やホームページにおいて記事掲載を行い、こころの健康や自殺予防の正しい情報を周知することができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
11 総合相談(母子健康手帳交付時相談)	母子健康手帳交付時に、マタニティブルーや産後うつ、産後ケア事業について情報提供を行うことで、妊産婦の健康づくりに関する啓発を行う。	母子健康手帳交付時に全妊婦に対して、助産師、保健師等が相談を実施し、妊娠中や産後の健康づくりに関する啓発を行った。 母子手帳交付時相談数:1,275人	1 当初の計画通りに進展した	窓口で妊婦本人が来所されない場合は、後日助産師が電話にて相談を実施し、概ね全ての妊婦に啓発を実施できた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
12 すこやか訪問事業	乳児がいる家庭に訪問を行い、親子の心身の状況や養育環境を把握するとともに、様々な不安や悩みに対する助言や子育て支援サービスの情報提供を行うことで、育児に係る不安の軽減を図る。すこやか訪問1回目においてはエジンバラ産後うつ病質問票を活用して産婦の心身状況を確認し、産後うつについて正しい知識の啓発を行い、必要時支援を行う。	【すこやか訪問1回目】対象者1,192人に対し、1,127人に訪問を実施した。訪問率は94.5%。エジンバラ産後うつ病質問票を活用して産婦の心身状況を確認し、産後うつについて正しい知識の啓発を行い、必要時支援を行った。 【すこやか訪問2回目】対象者1,124人(保育所在園児を除く)に対し、1,109人(前年度からの繰り越し40人分を含む)に訪問を実施した。訪問率は95.1%。	1 当初の計画通りに進展した	すこやか訪問1回目・2回目ともに90%以上の訪問率であり、昨年度と概ね同程度の訪問ができていい。訪問では親子の心身の状況や養育環境を把握するとともに、様々な不安や悩みに対する助言や子育て支援サービスの情報提供を行うことで、育児に係る不安の軽減を図ることができた。また、すこやか訪問1回目においてはエジンバラ産後うつ病質問票を活用して産婦の心身状況を確認し、産後うつについて正しい知識の啓発を行い、必要時支援を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
13 人権に関する講座(啓発)	人権セミナー開催 8回 対象：市民、関係機関等 ゲートキーパー養成研修と共催（1回）	人権セミナー全8回のうち1回をゲートキーパー研修の共催として実施した。 月日 令和元年9月5日（木） 13：30～15：00 場所 サンサンホール 3階会議室 テーマ 思いを共感して人とつながる ～かけがえのない命を守るゲートキーパー研修～ 講師 滋賀いのちの電話理事・滋賀県臨床心理士会副会長 千原美重子さん 受講者 26名	1 当初の計画通りに進展した	人権セミナーの一環として、市民へ人権と命の大切さを啓発するとともに、市民がゲートキーパーの役割について学び、受講者同士によるロールプレイを行い、ゲートキーパーの手法も体験することができた。	1 内容を変えずに継続	人権センター

② 職場におけるこころの健康づくりの推進

- ・職場におけるこころの健康づくりについて、関係機関と情報交換や連携により推進する。
- ・ワーク・ライフ・バランスを推進する。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
14 企業内同和教育推進事業	企業内における同和教育をはじめとする人権教育の推進を図るため、企業啓発指導員を配置するとともに各種研修会を開催し、また、7月を「なくそう就職差別 企業内公正採用・人権啓発推進月間」として、「差別のない明るい職場づくり」のため、各企業（事業所）を訪問するなどの事業を実施する。	企業内における同和教育をはじめとする人権教育の推進を図るため、企業啓発指導員を配置するとともに各種研修会を開催し、また、7月を「なくそう就職差別 企業内公正採用・人権啓発推進月間」として、「差別のない明るい職場づくり」のため、各企業（事業所）を訪問するなどの事業を実施した。 研修会開催回数：6回、参加事業所数：293社 事業所訪問数：286社	1 当初の計画通りに進展した	研修の開催や事業所訪問の他に、企業内人権教育啓発誌「しんらい」を発行するなどし、各企業に啓発活動を行った結果、同和問題をはじめとする人権問題について正しい理解と認識、公正な採用選考システムの確立など、明るい職場づくりを働きかけることができた。	1 内容を変えずに継続	商工観光労政課
15 【新規】健康経営推進事業	日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している企業等を顕彰する制度である「健康経営優良法人認定制度」の認定を受ける企業等を増やすため、市内の中小企業等に対し、健康経営の導入を啓発する。	健康経営の推進のため、市内企業を対象に、健康経営優良法人認定の取得に向けたセミナーを開催し、認定事業所数の増加に取り組んだ。 ・草津市健康経営セミナーの実施（6.26） ：14団体（19名） ・健康経営優良法人の認定事業数 ：12件	1 当初の計画通りに進展した	健康経営セミナーを受講から健康経営優良法人認定の取得に繋がっており、一定効果があったものと考えられる。	2 対象者や実施方法を変更して継続	商工観光労政課
16 働き方改革、ワーク・ライフ・バランスに関する啓発	市民団体と協働し、女性活躍推進・働き方改革講演会を行いワークショップの成果等を発表する。 草津市男女共同参画推進条例施行10周年の実績と課題についてのワークショップを行う。	○女性活躍推進・働き方改革講演会を実施した。 事業名：「サイボウズに学ぶ100人100通りの働き方」 令和2年1月17日 78名 ○草津市男女共同参画推進条例施行10周年事業 条例10周年報告・ワークショップ 令和元年7月20日 16名	2 概ね順調に進展した	女性活躍・ワーク・ライフ・バランスの取り組みを推進するため、先進的な取組をしている企業の講演会を予定どおり市民団体と協働で開催できた。 条例10周年報告・ワークショップ事業についても開催できたが参加人数が少なかった。	2 対象者や実施方法を変更して継続	男女共同参画課

③ 社会参加といきがいづくりの推進

- ・ 市民一人ひとりが楽しみやいきがいをもちながら暮らすことができるよう、様々な活動への参加を促進する。
- ・ 健康への不安を軽減するため、「かかりつけ医」を持つことをすすめるとともに、高齢者の社会活動やいきがいづくりの推進、在宅介護者への支援等を通じて、閉じこもりや孤立の予防を促進する。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
17 市民スポーツ大会の開催	スポーツ・レクリエーション祭やチャレンジスポーツデー等開催支援を行い、広く市民の参加を促すことで、生きがいづくりや、居場所づくりにつなげていく。	チャレンジスポーツデー 参加者数：4337人 駅伝競走大会 参加チーム数：126チーム（602人） スポーツ・レクリエーション祭 参加者数：741人	2 概ね順調に進展した	駅伝競走大会やチャレンジスポーツデー等スポーツ大会の開催や開催支援を行った結果、多くの市民に参加いただいた。スポーツを通じたいきがいづくりや、居場所づくりにつながった。	1 内容を変えずに継続	スポーツ保健課
18 自主教室の開催	各地域まちづくりセンターで自主教室による自主的な学習の場の提供を行う。	各地域まちづくりセンターにおいて様々な内容の自主教室が実施され、身近な地域での学習の場を提供できた。	1 当初の計画通りに進展した	各地域まちづくりセンターにおいて、教養を高め、地域文化の向上を図る学習の場として、自主教室を実施し、地域住民の仲間づくり、生きがいづくりに寄与できた。	1 内容を変えずに継続	まちづくり協働課
19 いきいき百歳体操	地域で高齢者を対象に、「いきいき百歳体操」を出前講座等で啓発し、地域が主体的に運動機能向上等の介護予防ができるよう活動支援（おもり、DVDの貸与、初期導入技術支援等）を行う。いきいき百歳体操登録団体数の維持あるいは増加と（H30年度：119団体）、登録者人数の維持あるいは増加を目指す（H30年度：2431人）。	地域で高齢者を対象に、「いきいき百歳体操」を出前講座等で啓発し、地域が主体的に運動機能向上等の介護予防ができるよう活動支援（おもり、DVDの貸与、初期導入技術支援等）を行った。いきいき百歳体操出前講座開催数：5回 いきいき百歳体操登録団体数R1年度：122団体 登録者人数R1：2453人	1 当初の計画通りに進展した	いきいき百歳体操登録団体数の増加と、登録者人数の増加が達成されたため。	1 内容を変えずに継続	長寿いきがい課
20 お出かけドクターとお気軽トーク（再掲）	8と同じ	実施回数 6回	2 概ね順調に進展した	糖尿病予防やフレイル予防（介護予防）等のテーマに沿い、派遣医師と参加者が直接話をする機会を設けることができ、「かかりつけ医」をもつことをすすめることができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

・ 基本施策（4）子ども・若者の自殺対策を推進する

① 学校・地域におけるこころの健康づくりの推進

- ・ いのちや人権を大切にできる教育を通して、こころの健康をはぐくみ、困った時に行動に移すことができるよう取り組む。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
21 いのちや人権を大切に した保育・教育の計画 と実践	公立幼稚園・保育所・認定こども園において、自分や周りの人（人権）を大切にできる心や育ると共に動植物とのふれあいを通じて命の大切さ・尊さ・感謝の気持ちなど、豊かな感性の育成を目指した教育・保育を進める。また、これらの取組について家庭や地域と連携していくように努める。	飼育活動を通して、命の大切さや尊さを感じ、いたわりの気持ちや感動体験を持つことができた。栽培活動では、園児自らが栽培・調理し、食べることを通じて、様々ないのちをいただいて自分が生きていることを知り、感謝するきっかけとなった。また、これらの取組みでは、地域の方々と連携して取組を行ったり、各家庭への啓発を積極的に行ったりした。	1 当初の計画通りに進展した	自然や様々な人とのふれあいや交流等、家庭・地域との連携した活動の中で、子どもたちの豊かな感性や心情の育成につながった。これらの取組により、心を揺さぶる感動体験につなげることができた。	1 内容を変えずに継続	幼児課
22 いのちや人権を大切に する教育の充実	中学校区ごとに人権教育実践交流会を開催し、校園所や地域と連携しながら、いのちや人権を大切にできる子どもの育成に努める。 【中学校区別人権教育実践交流会の開催】 ・高穂中学校区、草津中学校区、老上中学校区、玉川中学校区、新堂中学校区、松原中学校区、各1回ずつ開催予定	いのちや人権を大切にできる子どもの育成のために、「自分も友だちも大切」という心の育成、子ども一人ひとりを認め「自尊感情」の育成をはかるなど、各学区の課題に対する具体的な取組について校種を超えた実践の交流の中で、広め深め進めることができた。	1 当初の計画通りに進展した	市内各中学校区において、取組みの推進が図れた。	1 内容を変えずに継続	児童生徒支援課
23 いじめの未然防止の取組 （いじめ防止強化月間の 児童生徒の取組など）	いじめの未然防止のため、市内全小中学校において6月と9月に「いじめ防止啓発強化月間」として取組を行う。また、いじめ予防学習事例集をもとに授業を行い、いじめの未然防止に努める。	いじめの未然防止のため、市内全小中学校において6月と9月に「いじめ防止啓発強化月間」として取組を行った。また、いじめ予防学習事例集をもとに授業を行い、いじめの未然防止に努めた。	1 当初の計画通りに進展した	市内全小中学校において取組の推進が図れた。	1 内容を変えずに継続	児童生徒支援課

具体的な取り組み名		令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
24	青少年健全育成活動	草津市青少年育成市民会議の活動支援（大会開催等）を行うことで、地域ぐるみで青少年健全育成活動の推進を図る。	草津市青少年育成市民会議の活動支援を通じ、地域ぐるみで青少年を見守り育てる環境づくりを行った。 （草津市青少年育成市民会議の主な活動） ・青少年の主張発表大会の開催。中学生、高校生が日常感じていることを社会に訴えることにより、誇りと自覚を持ち、自主性を育てるとともに、青少年の健全育成に対する人々の理解を深める機会としている。 ・各学区において声かけパトロールや挨拶運動を実施。	1 当初の計画通りに進展した	・青少年の主張発表大会では、市内中学校・高等学校から3,880点の作文が提出され、多くの青少年が自分を見直す機会として、自主性を育てる一助となった。 ・声かけパトロールや挨拶運動を通じて、地域で青少年を見守り育てる環境づくりを努められている。	1 内容を変えずに継続	子ども家庭課
25	わんぱくプラザ事業等の取組	各まちづくり協議会の一括交付金事業として実施する。	各まちづくり協議会において、一括交付金事業として実施した。	1 当初の計画通りに進展した	自然体験活動やものづくり体験など、子どもたちが楽しみ、興味を持つ体験活動の企画を行い、多様な活動を通じて地域の子どもと大人がふれあう場を提供できた。	1 内容を変えずに継続	まちづくり協働課
26	共に支え合い育ち合う仲間作りの推進	公立幼稚園、保育所、認定こども園において、自分や周りの人（人権）を大切にすることを育てると共に、互いに認め合い、育ち合う仲間づくりを目指して教育・保育を進めていく。また、これらの取組について家庭、地域と連携するよう努めていく。	異年齢交流を通して、いたわりの気持ちを持ったり、憧れの気持ちを持ったりすることができ、互いに助け合い、困ったときに助けたり支えたりすることができるような仲間づくりにつながると考え実践した。また、自分の思いが安心して出せるような雰囲気づくりに努めるとともに、相手の気持ちも大切にできるような関わりを大切にし、自己肯定感を育みながら、人とのつながりの心地よさを感じることができるよう取組を行った。	2 概ね順調に進展した	生活や遊びの中で、さまざまな取組を通じ、自分や周りの人を大切にすることを育てると共に、互いに支え合い育ち合う仲間づくりを進めることができた。また、普段の生活や遊びの中で、意図的に異年齢で関わる機会を取り入れてきたことで、同年齢の友だちだけでなく、クラスの枠を超えた仲間づくりにつながることができた。	1 内容を変えずに継続	幼児課
27	一人ひとりを大切にされた保育・教育の実践	公立幼稚園、保育所、認定こども園において様々な取組を通して自分や周りの人（人権）を大切にすることを育て、命の大切さ、尊さを感じるなど、豊かな感性の育成を目指すとともに、個々の子どもを受け止め寄り添いながら、一人ひとりを大切にされた教育・保育を進めている。また、子育てに不安を抱える保護者の思いに寄り添い、共に考え、必要な支援ができるよう家庭・地域・関係機関と連携していく。	年間を通して、自分自身や自分の周りの人を大切にすることを育てることができる教育・保育の実践を行った。子どもの姿の背景にはどのような思いがあるか、また子ども一人ひとりの思いを受け止め、子ども理解をしていく中で情緒の安定を図り、子どもの人権を大切にされた支援を行ってきた。子育てに悩む保護者支援として、子どもの姿を共有し保護者の願いを受け止め、園と家庭の両輪で子どもの育ちを考えていくことができるよう、きめ細かい連携を図った。必要に応じて関係機関との連携を図ってきたが、子どもを中心に据えて、保護者の意向を大切にしながら、どのような関わりが必要か職員間で話し合い、園での丁寧な支援について職員間で協議を行った。	2 概ね順調に進展した	子どもとの信頼関係を軸に、一人ひとりが安心して過ごすことができるよう努め、表面上の子どもの姿だけをとらえるのではなく、さまざま姿の背景にある思いを探り、子どもの思いに寄り添うことを大切にしてきた。子育てに不安を抱える保護者が増えていくことや、個別の配慮が必要な子どもが多いことから、今後も継続して子どもの人権を大切にすることを職員の人権感覚を磨くことや、きめ細やかな保護者対応が必要である。	1 内容を変えずに継続	幼児課
28	SOSの出し方教育について、内容を検討する	小中学校では、22、23の取組を進める中で、相談できる相手に相談することや相談機関の紹介をしている。また、各学期に1回アンケートの実施により、子どものSOSをいち早くキャッチできるように取り組んでいる。今後より一層効果的な方法を検討するため、関係課で協議を行う。	学校では、各学期に1回アンケートを実施し、子どものSOSをいち早くキャッチできるように取り組むことができた。また、困ったときには、自分の信頼できる大人に相談することを子どもたちへ伝えることができた。さらに文科省・県の通知を受け、市教委より、児童生徒の自殺予防教育及び取組を積極的に実施するよう市内小中学校に対して通知した。	2 概ね順調に進展した	各校においては、計画通り実施。市教委は通知を行った。	1 内容を変えずに継続	健康増進課 児童生徒支援課

② 子ども・若者の相談体制の強化

・子ども・若者の関係機関が集まり、情報共有する場を設け、相談体制のさらなる強化に取り組む。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
29 スクールカウンセラー等活用事業	スクールカウンセラーを草津中学校区2人、高穂中学校区1人、老上中学校区1人、玉川中学校区1人、松原中学校区1人、新堂中学校区1人、志津小学校1人、草津第二小学校1人、計9名配置し、不登校やいじめをはじめとする問題行動に対応する。	スクールカウンセラーの対応した児童生徒及び教職員の相談のべ件数 1399件 高穂中学校区 145件 草津中学校区 506件 老上中学校区 121件 玉川中学校区 122件 松原中学校区 146件 新堂中学校区 100件 志津小学校 180件 草津第二小学校 79件	1 当初の計画通りに進展した	スクールカウンセラーを配置し、不登校児童生徒やいじめをはじめとする問題行動等の対応にあたって、教員の資質向上と児童生徒の諸問題の解決に資することができた。	2 対象者や実施方法を変更して継続	児童生徒支援課
30 スクールソーシャルワーカー活用事業	社会福祉の専門的な知識・技術を活用し、課題のある児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭・学校・地域・関係機関をつなぎ、児童生徒個々の課題の解決に向けて支援する。(SSW2名)	・スクールソーシャルワーカーの対応した児童生徒及び教職員の相談のべ件数 821件 ・市内の教育相談主任研修や初任者研修で講師として講話 ・関係機関とのケース会議や移行支援会議にて助言	1 当初の計画通りに進展した	スクールソーシャルワーカーを配置し、学校不適応や不登校、生徒指導に関する課題の対応にあたり、児童生徒の諸問題の解決を行うとともに、教員の資質向上に資することができた。	1 内容を変えずに継続	児童生徒支援課
31 草津市問題行動対策委員会、小中学校生徒指導主事主任会、グレードアップ連絡会の開催	草津市問題行動対策委員会(週1回)、小中学校生徒指導主事主任会(二か月に1回)、中学校区別グレードアップ連絡会(中学校区ごとに月1回)を開催し、児童生徒の問題行動等への対策を推進する。	草津市問題行動対策委員会(週1回)、小中学校生徒指導主事主任会(二か月に1回)、中学校区別グレードアップ連絡会(中学校区ごとに月1回)を開催し、児童生徒の問題行動等への対策を推進した。	1 当初の計画通りに進展した	いじめ・不登校・学校不適応を含む問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応につながった。また、各関係機関と連携して対応することができた。	1 内容を変えずに継続	児童生徒支援課
32 少年相談	少年に関する相談を職員や臨床心理士が電話や面談で行う。	少年に関する相談をカウンセラー(臨床心理士)や職員(教員OB等)が電話や面談を通して、個々の少年に合った支援を行った。 相談件数 858件 【内訳】 電話 420件 面談 438件	1 当初の計画通りに進展した	相談内容が多岐にわたり、学校や保護者からの相談も多いことから、関係機関、団体等とも連携し、様々な困難を有した少年達の立ち直り支援を継続していく。	1 内容を変えずに継続	少年センター
33 こころの健康についての相談	こころの健康に関する相談を希望する者に対し、保健師が個別に電話や面接等で相談を実施していく。対象が孤立しないよう、地域や関係機関との連携をはかり支援をすすめる。	こころの健康に関する相談を希望する者に対し、保健師が個別に電話や面接等で相談を実施した。 ・精神保健相談件数1,047件 【内訳】訪問 164件 電話 643件 面接 240件 ・コーディネート 1,510件 うちケース会議件数106件	1 当初の計画通りに進展した	随時、保健師がこころの健康に関する相談を実施し、医療機関、福祉関係機関、警察、就労支援機関等と連携しながら支援を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

③ 教職員に対する啓発等の実施

・教職員が子どものSOSをキャッチする力や指導力、実践力等の向上を図るため、研修を実施する。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実施結果	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
34 草津市問題行動対策委員会、小中学校生徒指導主事主任会、グレードアップ連絡会の開催(再掲)	草津市問題行動対策委員会(週1回)、小中学校生徒指導主事主任会(二か月に1回)、中学校区別グレードアップ連絡会(中学校区ごとに月1回)を開催し、児童生徒の問題行動等への対策を推進する。	31と同じ	31と同じ	31と同じ	31と同じ	児童生徒支援課
35 草津市教職員夏期研修講座の開催	いじめをはじめとする問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応等について研修を深めるために、草津市内の教職員を対象とした研修講座を実施する。	いじめや不登校に関する事例をもとに、学校組織としての見立てや対応の仕方、問題解決や未然防止のための方策についての研修を行った。 長野総合法律事務所弁護士 草津市学校問題サポートチームアドバイザー 峯本 耕治氏 参加者：幼・小・中・その他 計100名	1 当初の計画通りに進展した	いじめをはじめとする問題行動等の未然防止や早期発見、早期対応等について、教職員を中心に100名の参加の中、研修を深めることができた。	2 対象者や実施方法を変更して継続	教育研究所
36 研修会等への参加呼びかけ(自殺予防に関する普及啓発協議会等)	滋賀県教育委員会が主催する自殺予防に関する普及啓発協議会への積極的な参加を呼びかける。	滋賀県教育委員会が主催する児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会に2名参加した。	3 進展は不十分だった	研修に参加することで、子どものSOSをキャッチする力や指導力、実践力等の向上を図る方法を学ぶことができた。研修会の周知および啓発をさらに行う必要がある。	1 内容を変えずに継続	児童生徒支援課
37 研修会等への参加呼びかけ(教職員のメンタルヘルス)	滋賀県教育委員会が主催するメンタルヘルスにかかる研修会への積極的な参加を呼びかける。	滋賀県教育委員会が主催するメンタルヘルスにかかる研修会の参加を学校へ呼びかけた。 参加者：20校中7校 7人	2 概ね順調に進展した	全市内小中学校20校に呼びかけ、養護教諭7名の参加があった。	1 内容を変えずに継続	スポーツ保健課

④ 若者への支援の充実

- ・若者が悩みの相談先について、必要な情報を得ることができるように、わかりやすい情報発信と相談しやすい手段や仕組みについて検討する。
- ・若年無職者等の職業的自立に向けて、地域の関係機関と連携し、個別的・継続的に支援する。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
38 【新規】わかりやす情報発信と相談手法についての検討	若者が悩みの相談先として、必要な情報を得ることができるように、SNSの活用を含めたわかりやすい情報発信と相談しやすい手段や仕組みについて検討する。	SNSの活用について、実施している団体から情報収集を行った。	2 概ね順調に進展した	SNSの活用について、実施団体から情報収集は行ったが、国における実施状況や、他市の状況も把握し、SNSの活用等についてさらに検討する必要があるため。	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
39 生活困窮者自立支援事業(就労準備支援)	生活困窮者の状態に応じて、自立相談支援事業、住居確保給付金、一時生活支援事業等の支援を行うとともに、就労経験のない方や、ひきこもり状態にある方が一般就労を目指すための訓練を行うことのできる就労準備支援事業を実施していく。	生活困窮者の状態に応じて、自立相談支援事業、住居確保給付金、一時生活支援事業等の支援の実施とともに、就労経験のない方や、ひきこもり状態にある方が一般就労を目指すための訓練を行うことのできる就労準備支援事業を実施した。 令和元年度：生活困窮者自立相談233件、住居確保給付金制度4件、一時生活支援事業14件、就労準備支援事業6件(各実件数)	1 当初の計画通りに進展した	平成30年度よりも相談件数が増加し、また、支援相談機関との連携により相談を充実することで、就労準備支援事業等利用件数が増加できた。	1 内容を変えずに継続	人とくらしのサポートセンター
40 少年相談(就労支援プログラム)	ハローワークへの随行や模擬面接などの実践的な支援のほか、体験協力支援事業主の協力を得て、職場体験できる環境を整え就労支援を行う。	32と同じ	1 当初の計画通りに進展した	32と同じ	1 内容を変えずに継続	少年センター

■基本方針3. 一人ひとりが気づき、孤立しない地域づくりをすすめます

・基本施策(5) 気づいて行動できる人をふやす

① 地域住民を対象とした研修の実施

- ・民生委員児童委員や健康推進員等をはじめ多くの地域住民に対し、身近な人のこころの不調に気づいて行動できるよう、学ぶ機会を設ける。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
41 市民等対象ゲートキーパー養成研修	ゲートキーパー養成研修の開催 2回 対象：市民、関係機関等 人権セミナーと共催(1回)	ゲートキーパー養成研修 人権セミナーと共催で1回開催 もう1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	2 概ね順調に進展した	研修を1回実施できなかった。 人権センターと共催の研修では、初めて参加する方が多かったが、今後ゲートキーパーとして行動できると答えた方が約8割だった。	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
42 みんなでトークでのゲートキーパー養成研修	市民からの要請を受け、随時ゲートキーパー養成やこころの健康づくり等の内容について話し、啓発を行う。	4回実施	1 当初の計画通りに進展した	ゲートキーパー養成やこころの健康づくり等の内容について話し、啓発を行った。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
43 健康教育等出前講座でのゲートキーパー養成研修	市民からの要請を受け、随時ゲートキーパー養成やこころの健康づくり等の内容について話し、啓発を行う。	同上	1 当初の計画通りに進展した	同上	1 内容を変えずに継続	健康増進課

・基本施策（6）孤立しない地域づくりを行う

① 地域での孤立化防止への取組

・民生委員児童委員や関係機関等との連携により、地域で声かけ、見守りを行い、誰にも相談できず孤立する人をなくす。

具体的取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
44 自主教室の開催 (再掲)	18と同じ	18と同じ	18と同じ	18と同じ	18と同じ	まちづくり協働課
45 草津市民生委員児童委員協議会事務局活動支援	毎月1回総務会、必要に応じ総務委員会を開催し、関係機関などからの情報提供や協議を実施する。また、5部会2委員会1連絡会をはじめとした民生委員児童委員協議会活動が有効に機能するよう、職員の学区担当制による情報提供やアドバイスをを行い、円滑に活動が行えるよう支援、協力をする。	毎月1回総務会、必要に応じ総務委員会を開催し、関係機関などからの情報提供や協議を実施した。また、5部会2委員会1連絡会をはじめとした民生委員児童委員協議会活動が有効に機能するよう、職員の学区担当制による情報提供やアドバイスをを行い、円滑に活動が行えるよう支援、協力をした。	1 当初の計画通りに進展した	高齢者・要援護者宅への友愛訪問や、高齢者が集う(いきいきサロン)の運営・救急医療情報キットである(いのちのバトン)の配布などを通じて見守り活動を実施した。また、いつでも困ったときには相談していただけるよう、周知・啓発をかねて、啓発ティッシュや民児協広報誌(こぼと)、行政から依頼をされている配布物をアイテムとして、地域における日常적인見守りや声掛けを実施し、個別相談などを通じて、住民が地域で孤立しないように見守り活動を実施した。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
46 草津市学区・区社会福祉協議会活動支援	地域福祉の推進を図るため、ふれあいの場づくり事業など住民同士がつながりを強め、孤立、孤独を防ぎ支え合う地域づくりをすすめるよう、学区社協活動を支援する。	・毎月学区社協会長会を実施し、各学区の実施状況についての意見交換の場を設けたり、学区社協の活動をまとめた「学区社協便覧」を作成した。 ・「福祉の土壌づくり」「活動の担い手づくり」「個別援助活動」「地域福祉関係団体間の交流」等の活動を展開する学区社協活動を支援するため、学区社協に対しての補助金の交付を行った。 ・地域のふれあいの場づくり助成事業を行い、学区社協で行われる新規事業や拡充を図る事業に対し、助成金を交付した。 採択学区…3学区 ・常盤学区…ときわの健康づくり推進事業 ・笠縫東学区…地域の福祉活動担い手育成事業 ・笠縫学区…地域の福祉活動担い手育成事業	1 当初の計画通りに進展した	・学区社協会長会では、各学区での取り組みからアイデアを得る機会にもらった。 ・補助金の交付においては、学区社協が継続して事業を展開するための支援を行った。 ・ふれあいの場づくり助成事業 常盤学区では、学区住民の健康づくりとして健康講座の実施や、まちセン内に健康コーナーを設け、健康チェックや脳トレ等を行えるようにし、日常的健康管理とともに健康意識の高揚が図れた。 笠縫東学区・笠縫学区では、地域の福祉活動の担い手である福祉委員に、ベストを作成し、ベストを着用して地域の福祉活動に参加することで、福祉委員の周知を図り、福祉委員の連帯感につながった。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
47 隣保館におけるサロン開設	月曜日から土曜日まで、交流サロンを開放し高齢者の居場所づくりを行う。地域の高齢者福祉の向上を図るため、高齢者の生きがいづくりの一助となるような、社会生活訓練等の体験学習や創作活動等を仕様書に基づき指定管理者が実施する。	月曜日から土曜日まで、交流サロンを開放し高齢者の居場所づくりを行った。地域の高齢者福祉の向上を図るため、高齢者の生きがいづくりの一助となるような、社会生活訓練等の体験学習や創作活動等を仕様書に基づき指定管理者が実施した。	1 当初の計画通りに進展した	計画通りの事業を実施することで、周辺地域を含めた高齢者の居場所作り、生きがい作りをすることができた。	1 内容を変えずに継続	人権政策課 (各隣保館)
48 地域サロン活動支援	高齢者の見守り活動や、身近な場所で支え合う関係づくりを推進し、高齢者の介護予防と自立を促進するためにサロン活動の拡充に努める。	地域サロン活動を通して、高齢者の見守り活動を推進し、身近な場所で支え合う関係づくりを目的として、高齢者の介護予防と自立を促進するためにサロン活動の拡充に努めた。 地域サロン数:157団体 地域サロン交流会:49団体、91人	1 当初の計画通りに進展した	みずの森やロクハ荘を活用したとく・得バスツアーを実施し、外出機会を増やす支援を行った。また、居場所づくり、孤立防止としての地域サロン活動への支援のほか、サロン同士の横のつながりをつくるため、地域サロン活動の継続と活性化につながる交流会を実施し、拡充に努めた。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
49 近所力アップ講座	職員が地域へ出向き、より身近な福祉の専門職として、住民同士の日頃からのつながりの大切さを伝え、住民の皆様とともに地域福祉活動の大切さを語り合う。	合計参加者：約55人 (講座内容) 1、テーマ：地域を知るすごろくゲーム 依頼団体：馬池町自治会 参加者数：約30人 2、テーマ：見守りあえる地域へ 向こう三軒お互いさま 依頼団体：岡本町内会 参加者数：約25人	1 当初の計画通りに進展した	地域に出向き、地域福祉活動の大切さを伝えることができた。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会

具体的な取り組み名		令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
50	学区の医療福祉を考える会議	未開催の2学区において開催が実現するよう、引き続き関係団体に働きかけを行う。	未開催学区に対して、地域の関係者への説明等、開催に向けた働きかけを行った。 開催学区においては、高齢者の実態や課題の共有、地域のネットワークの構築を図った。 令和元年度 開催学区:12学区(志津、矢倉、草津、渋川、老上、老上西、玉川、南笠東、山田、笠縫、笠縫東、常盤)	2 概ね順調に進展した	未開催学区に対しては、開催に向けて地域関係者に働きかけ、うち1学区は次年度立ち上げに向けての足掛かりができた。 開催学区においては、地域の現状や課題を共有し、見守り体制等の支え合いの仕組みづくりについて協議を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	地域保健課
51	草津フードバンクセンター事業	生活に困窮している世帯や住民同士の支え合い活動を実施する団体に対して、食品のニーズを正確に把握し、草津フードバンクセンターに集まった食糧を無償で提供し、地域福祉活動推進の一助とする。 また、善意の循環システムの構築に向けて引き続き取り組む。	年4回フードドライブとして善意の提供を呼びかけ、福祉施設や団体、生活困窮世帯に無償提供した。 【物品】 米 1, 486kg、米以外 2, 665品 【寄付者】 団体 14件、個人 101件、合計 115件	1 当初の計画通りに進展した	生活に困窮している世帯や住民同士の支え合い活動を実施する団体に対して、草津フードバンクセンターに集まった食糧を無償で提供し、地域福祉活動の推進に努めた。 また、企業や個人にとっては、フードバンク事業への協力が社会貢献や地域福祉活動への参加・協力になるという善意の循環システムの構築を図った。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
52	生活つなぎ資金貸付	一時的に生活困難に陥った世帯に生活のつなぎとして資金を貸し付けし、健康で安心できる生活の維持と自立の助長を図る。	民生委員児童委員と連携し、一時的に生活困難に陥った世帯が再び安定した生活に戻るまでの間をつなぐため、生活つなぎ資金を貸し付けた。 ・貸付相談件数 42件 ・貸付件数 37件 ・貸付額 1,540,000円	1 当初の計画通りに進展した	行政等関係機関や民生委員と連携し、食べる物が無かったり、ライフラインが止まりそうな方の生活が安定するまでのつなぎの役割を果たせた。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
53	生活福祉資金貸付	失業者への支援や、生活に必要な器具の購入に対する貸付のほか、教育支援資金の貸付など、健康的な生活が維持できるよう貸付を行う。	緊急小口資金:15件 福祉費:9件 教育支援資金:10件	1 当初の計画通りに進展した	失業者への支援のほか、病気療養中の療養費、生活に必要な器具の購入に対して貸付することで、健康的な生活の維持に資することができた。また、教育支援資金の貸付により進学の夢を持つ若者が経済的理由で進学できないという事態を免れることができた。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
54	地域福祉権利擁護事業	金銭的な不安を軽減し、日々の生活を穏やかに送ってもらえるよう専門員と支援員が連携し、孤立防止の支援を行う。 また、今年度は事業に関する周知啓発について取り組んでいく。	令和元年度末契約人数:43人 令和元年度支援・相談件数:2, 289件 ケース会議やカンファレンスに随時参加	2 概ね順調に進展した	金銭的な不安を軽減し、日々の生活を穏やかに送ってもらえるよう専門員と支援員が連携し、孤立防止の支援を行った。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
55	独居高齢者電話訪問事業	傾聴ボランティアにより電話で独居高齢者に対し話し相手となることにより、孤立・孤独に陥らない様見守る。 傾聴ボランティア新規養成のための講座を開催するとともに、連絡会を月一回開催し、電話の報告を受け精神保健福祉士による助言を行い、スキルアップにつなげる。	傾聴ボランティアにより電話で独居高齢者に対し話し相手となることにより、孤立・孤独に陥らない様見守った。担当民生委員児童委員・地域包括支援センターとも連携した。 傾聴ボランティア連絡会を月一回開催し、電話の報告を受け精神保健福祉士による助言を行い、スキルアップにつなげた。 電話訪問回数:191件	1 当初の計画通りに進展した	利用者の話し相手となり、見守りを行うことで、孤立・孤独に陥らないよう努めた。 また、事業の周知啓発のため、広報への掲載を行い、新規の利用につながった。	1 内容を変えずに継続	草津市社会福祉協議会
56	ファミリー・サポート・センター事業(子育てと就労支援)	地域における子育てと就労支援を行うために、育児支援を受けたい依頼会員と援助をしたい提供会員が会員組織を構成し、相互援助活動を展開する。	依頼会員と提供会員のマッチングを行い、延べ人数で2,914人の利用があり、地域における子育てと就労支援を行った。	3 進展は不十分だった	平成30年度の延べ利用者数は3,249人であり、利用者数が減少した結果となった。引き続き更なる周知に努める必要がある。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
57	孤立化防止対策事業	引き続き、民生委員・児童委員等の地域の支援者に相談活動や見守り活動を依頼するとともに、NPO法人に事業を委託し、サロン開催や対象世帯への訪問等を行う。	嘱託職員の雇用と、事業委託により、サロン開催や対象世帯への訪問等を行った。	2 概ね順調に進展した	計画通り事業を進め、前年よりも具体的な相談を受けるなど、一定の成果が見られた。	2 対象者や実施方法を変更して継続	障害福祉課

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
58 子育て支援センター運営事業	家庭または地域における子育て機能の低下、子育てをしている親の孤独や不安の増大等の問題を解決するため、子育てをしている親子の交流等を支援することにより、子育ての不安を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進する。また、直営のぼかぼかタウンについては、草津駅前の子育て支援拠点施設の整備を踏まえて、事業の継続等について検討を行う。	特別講座、妊婦教室、ツインズフレンズなどを開催し、親子の交流や気持ちをリフレッシュできる場を提供した。 令和元年度利用者数：14,967人	2 概ね順調に進展した	子育てをしている親子の交流等の支援を通じて、子育ての不安を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することができた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
59 子育て支援拠点施設運営事業	家庭または地域における子育て機能の低下、子育てをしている親の孤独や不安の増大等の問題を解決するため、相談業務を充実させた親子の交流を提供するとともに、子育てに関する様々な情報発信を行うことで、子育ての不安を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進する。	子育てをしている親子が気軽に利用し、交流することのできる場を提供した。 令和元年度利用者数：40,887人	2 概ね順調に進展した	子育てをしている親子の交流等の支援を通じて、子育ての不安を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進することができた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
60 つどいの広場事業	子育て親子がいつでも気軽に集い、子育ての悩み等を相談できる環境をつくるため、今後も必要な圏域におけるつどいの広場事業を継続し、地域の子育て支援機能の充実を図る。	つどいの広場等の子育て支援施設を開設し、子育て親子が気軽に集い、悩みを相談できる環境づくりを行った。 令和元年度利用者数：8,152人（まめっこ）、3,474人（くれよん）	2 概ね順調に進展した	つどいの広場において、子どもの成長や健康などの育児について語り合い、相談や交流するための場を提供することができた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
61 子育てサークル活動支援事業	地域ぐるみの子育てを支援する環境づくりとネットワークを促進するため、活動経費の一部を補助し、地域における子育て支援団体の育成と活動を支援する。	地域での子育て支援の環境づくりのため、39団体に対して活動費の一部を補助した。また、71団体のサークル登録を行い、市民からの問い合わせに対して紹介を行った。	2 概ね順調に進展した	補助金を交付することにより、子育てサークルの活動の支援を行った。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
62 離乳食レストラン（地域における交流機会の提供・参加促進）	健康推進員による離乳食レストランの実施において、離乳食に関する情報提供を行う。そして育児に関する悩みなどの話し合いを通して、親子が交流できる場づくりを行い、地域で孤立化を防ぐ。	離乳食レストランを開催し、離乳食の調理見学や試食、必要時相談支援を行った。 令和元年度利用者数：494人（うち児：239人）	2 概ね順調に進展した	健康推進員による離乳食レストランの実施において、離乳食に関する情報提供を行う。そして育児に関する悩みなどの話し合いを通して、親子が交流できる場づくりを行い、地域で孤立化を防ぐことができた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター

② ひきこもり者への支援の充実

・ひきこもり者への個別支援について、早期段階で相談につながる体制を整える。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
63 人とくらしのサポートセンター（福祉の総合相談窓口）	引き続き当センターの周知を図るとともに、複合的な課題の解決に向け、福祉の総合相談を行う。また、ひきこもりに関する機関との連携を推進するとともに、就労準備支援事業なども活用し、必要な支援利用に繋げる。	当センターの周知を図るとともに、複合的な課題の解決に向け、福祉の総合相談を実施した。また、ひきこもりに関する機関との連携を推進するとともに、就労準備支援事業なども活用し、必要な支援利用に繋げた。 ○人とくらしのサポートセンター 総相談件数 297件（実件数） ・うち生活困窮者自立相談233件、総合相談64件（各実件数） ・就労準備支援事業6件（実件数） ・一時生活支援事業14件 ・住居確保給付金4件（実件数） ・子どもの学習支援事業3件（実件数） ・家計改善事業2件（実件数） ・総相談件数のうち、ひきこもり（ニートを含む）の相談件数 42件（実件数）	1 当初の計画通りに進展した	平成30年度よりも総相談件数、ひきこもりの相談件数も増加し、状況に応じて生活困窮者自立支援事業等の制度利用へ繋ぐことができた。	1 内容を変えずに継続	人とくらしのサポートセンター
64 早期段階で相談につなげる方策の検討	ひきこもり者について、人とくらしのサポートセンターや子ども・若者政策課とともに、支援の体制づくりについて検討する。	人とくらしのサポートセンター運営会議（2回）に出席事例検討を通して、子ども・若者政策課とともに支援体制について協議を行った。	1 当初の計画通りに進展した	会議の中で、事例検討を通して、人とくらしのサポートセンターや子ども・若者政策課とともに支援体制について協議を行った。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

■基本方針4. 自殺予防の体制づくりを行います

・基本施策（7）相談支援のネットワークを強化する

① 相談窓口のわかりやすい情報発信

・相談窓口をわかりやすく周知し、市民が相談しやすい環境を整える。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
65 相談窓口の周知活動（リーフレット・ホームページ等）	関係各課により、各相談窓口について周知を行う。	相談窓口リーフレットを改訂し配布した。（18,000部）各関係機関窓口にてリーフレットを設置したり、ホームページにも相談窓口を掲載し周知した。	1 当初の計画通りに進展した	関係各課において、相談窓口の周知を適宜行った。	1 内容を変えずに継続	関係各課
66 相談窓口リーフレットの作成・配布	相談窓口リーフレットの作成変更箇所があれば改訂し、配布する。	相談窓口リーフレットを改訂し配布した。（18,000部） 配布先：相談窓口関係機関・商工会会員・障害児（者）自立支援協議会・居宅介護支援事業所・医療機関・保育所（園）、幼稚園、小中学校、高校、大学、市イベント参加者 転入手続者・妊娠届出者・市内小中学校卒業生全員など	1 当初の計画通りに進展した	仕事を持つ中年層、健康問題や家庭内の問題を抱えているかもしれない人等、あらゆるライフステージをターゲットに、少しでも多くの市民にリーフレットが届くよう工夫し配布した。当初予定していた30,000枚は配布できなかった。	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
67 妊産婦、乳幼児等に関する相談窓口の周知	広報、HP、ポスター、相談窓口リーフレット、さわやか健康だより等で相談窓口の周知を行う。	広報、HP、ポスター、相談窓口リーフレット、さわやか健康だより等で相談窓口の周知を行った。	1 当初の計画通りに進展した	計画通りに実施出来たため。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
68 女性の総合相談窓口の周知について	平成30年度と同様に、男女共同参画啓発紙「みんなで一歩」、草津市HP、広報くさつに掲載したり、イベント開催時などに相談窓口について周知する。当課は令和2年度に（仮称）市民総合交流センター内に移動予定であるので、相談体制について検討する。	男女共同参画啓発紙「みんなで一歩」、草津市HP、広報くさつに掲載するほか、事業実施時にも相談窓口についてPRした。 相談件数160件	1 当初の計画通りに進展した	例年通り、男女共同参画啓発紙「みんなで一歩」、草津市HP、広報くさつに掲載し、相談窓口について周知を行った。平成30年度相談件数107件を上回る相談件数となった。	1 内容を変えずに継続	男女共同参画課
69 地域包括支援センターの周知活動	市民や地域の関係者が集まるさまざまな機会を捉え、周知活動を行う。 地域包括支援センターが適切に相談支援していけるよう、関係者とのネットワーク作りを強化していく。	市民への周知をはじめ、まちづくり協議会や学区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会等の関係機関とのネットワーク構築を図ることができた。 【地域包括支援センター相談延べ件数】 18,037件	1 当初の計画通りに進展した	高齢者をささえるしくみやホームページ、学区の医療福祉を考える会議等を通じて、相談窓口である地域包括支援センター（6か所）の、周知を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	地域保健課
70 【新規】わかりやすい情報発信と相談手法についての検討（再掲）	38と同じ	38と同じ	2 概ね順調に進展した	38と同じ	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課

② 相談支援のネットワーク体制の充実

・制度の狭間にある人、複合的な課題を抱え自ら相談に行くことが困難な人等を早期に発見し、関係機関が連携して支援ができるよう、相談支援のネットワーク体制の充実に取り組む。

具体的な取り組み名		令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
71	人とくらしのサポートセンター運営会議	人とくらしのサポートセンターと庁内関係課や外部関係機関との連携推進のため、定期的に運営会議を開催し、情報共有や意識の向上を図る。	人とくらしのサポートセンターと庁内関係課や外部関係機関との連携推進のため、定期的に運営会議を開催し、情報共有や意識の向上を図ることができた。 令和元年度：2回実施	1 当初の計画通りに進展した	計画通り開催し、庁内関係課や外部関係機関との連携を推進できた。	1 内容を変えずに継続	人とくらしのサポートセンター
72	草津市障害児（者）自立支援協議会	市内に居住する障害児（者）が、住み慣れた地域で安心して自立した社会生活を営むことができるよう関係機関が集まり、課題の抽出や情報の共有を行い、社会資源を整備する。 ・全体会 ・定例会 ・研修会	市内に居住する障害児（者）が、住み慣れた地域で安心して自立した社会生活を営むことができるよう関係機関が集まり、課題の抽出や情報の共有を行い、社会資源の整備に努めた。 ・全体会 1回 ・定例会 2回 ・研修会 1回	2 概ね順調に進展した	計画通り事業を進めることができ、一定の効果があつたと考える。	1 内容を変えずに継続	障害福祉課
73	要保護児童対策地域協議会	虐待を受けた子どもや支援の必要な子どもなど、要保護児童等の早期発見と適切な支援を行うため、関係機関等と必要な情報交換を行い、支援の内容等について協議を行う。 ・代表者会議 ・実務者会議 ・個別ケース検討会議	迅速かつ適切な支援を行うため、支援の方向性や必要な情報共有、役割分担を行い、ケースの適切な進行管理に努めた。 ・代表者会議 2回実施 ・実務者会議 12回（うち1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため資料で情報共有） ・個別ケース検討会議 188回	1 当初の計画通りに進展した	計画通り、関係機関連携のもとケース支援を行った。	1 内容を変えずに継続	家庭児童相談室
74	高齢者の虐待防止	高齢者虐待の通報受付、事実確認、初動会議、処遇検討会議、評価会議の実施、高齢者・養護者の支援を行う。また、虐待防止について啓発を行う。	通報件数：23件 高齢者虐待処遇検討会議：定期 5回 随時 3回 ホームページに虐待防止の記事を掲載した。	1 当初の計画通りに進展した	通報を受けて、虐待の事実の確認を行った後、会議にて対応方針を決定し、解決に向けて適切に対応を行ったため。	1 内容を変えずに継続	長寿いきがい課
75	総合相談事業	妊娠・出産・子育てに関する相談支援や情報提供、母子健康手帳交付時の全妊婦に対する相談を行うとともに必要な支援につなぎ、不安感や負担感の軽減に努める。	妊娠届出時に、保健師・助産師が全妊婦に対して相談を実施した。また随時の相談に、保健師・助産師・保育士が対応した。 妊娠届出時相談 1,275人（延べ） 随時相談（来所・電話・メール） 822人（延べ）	1 当初の計画通りに進展した	相談時に必要な情報提供や支援を実施し、相談の結果、継続支援が必要と判断した場合は、個別支援計画を立て、養育支援会議に報告し、他機関との連携を図り、保護者の不安感や負担感の軽減に努めた。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
76	妊産婦・乳幼児等に関する健康相談	母子保健事業を通して、保健師・助産師が相談を実施し、早期に支援の必要な方の把握や早期支援につなぎ、不安や負担の軽減に努める。	母子保健事業を通して、保健師・助産師・管理栄養士・歯科衛生士・発達相談員が相談を実施した。	1 当初の計画通りに進展した	相談内容に応じて、各専門職が相談に応じ、不安の軽減を図り、早期支援が必要なケースを早期に把握し、早期支援に繋いだ。	1 内容を変えずに継続	子育て相談センター
77	生活保護業務	生活保護の相談者に対し、相談者の状況を把握し、生活保護制度の仕組みについて説明した上で、生活保護の申請の意思が確認された方に対しては、速やかに保護申請書を交付し、必要な方には生活保護の適用を行う。また、生活保護適用後は、窓口や訪問時に身の回り等に関する相談を聞き、適切なアドバイスを行う。	生活保護の相談者の現状や抱える問題について把握し、生活保護制度の仕組みについて、適切な説明を行った。また、生活保護の申請があつた場合には、適正に保護の適用を行った。 生活保護適用後は、適時、訪問を行い、生活状況の確認や、身の周りに関する相談に、アドバイスを行った。	1 当初の計画通りに進展した	生活保護の必要な方に対し、適正に保護の適用が行えた。 必要に応じた相談や、適時訪問を行うことにより、相談者の生活や健康の安定を図れた。	1 内容を変えずに継続	生活支援課
78	就労に関しての相談	就労支援相談員による就職困難者等にかかる相談業務において、相談や情報提供に併せて健康相談やメンタル面についてもヒアリングを行い、必要に応じて関係機関との連携を図り、相談者に配慮しながら取り組む。	就労支援相談員による就職困難者等にかかる相談業務において、相談や情報提供に併せて健康相談やメンタル面についてもヒアリングを行い、必要に応じて関係機関との連携を図り、相談者に配慮しながら取り組んだ。 相談件数：181件 相談者数：27人	1 当初の計画通りに進展した	就労相談から就労につながった人数は1人であった。その他、相談者に対して情報提供を行い、就労だけでなく、健康面やメンタルの問題についての相談を実施し、就職困難者等に対して支援を行うことができた。	1 内容を変えずに継続	商工観光労政課

具体的な取り組み名		令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
79	市民相談	市民の暮らしの中での困りごとや心配ごとについて相談を受け、解決に向けた助言や専門相談機関等の案内を行います。また、必要に応じて関係機関と連携を図り、不安感や負担感の軽減に努めます。 対象：市民 開設日時：月～金曜日 午前9時～午後4時30分 場所：市民相談室	○相談員 2名配置 ○一般相談（相談員2名体制） 年間相談対応件数 644件 ○専門相談 ①法律相談（毎月1回実施、年38件） ②行政相談（毎月2回実施、年3件） ③税務相談（月1回実施、年37件） ④行政書士相談（月1回実施、年23件）	1 当初の計画通りに進展した	・多様な相談に応じる中で、解決に向けた助言や専門相談機関等の案内が図られた。 ・必要に応じて関係機関と連携を図り、不安感や負担感の軽減に努めることができました。	1 内容を変えずに継続	生活安心課
80	消費生活相談	消費生活に関する相談に対応するとともに、被害の防止に向けた消費者教育や啓発を行います。また、必要に応じて関係機関と連携を図り、不安感や負担感の軽減に努めます。 対象：市民 開設日時：月～金曜日 午前9時～午後4時30分 場所：消費生活センター	○消費生活相談員 4名配置 ○年間相談(苦情)対応件数 1,147件 ○年間啓発活動 ・広報くさつ「はい！消費生活相談員です」6回 ・町内回覧 センターニュース2回 ・メール配信サービス22回 ・みんなでトーク、出前講座5回(高齢者3回、団体2回) ・街頭啓発2回 (特殊詐欺被害防止・防犯啓発、全国交通安全運動開 会式 各1回) ・各種イベント2回 (消費者被害防止共同キャンパ-ン、滋賀県消費者フェスタ 各1回)	2 概ね順調に進展した	・消費者トラブルの解決に向けた助言やあつせんを実施し、トラブルを解消する取り組みが図られた。また、市民に対し、出前講座などの教育・啓発活動を実施し、消費者被害を未然に防ぐ取り組みが図られた。小・中学校には、新型コロナウイルス感染拡大防止(休校)のため、実施できなかった。 ・必要に応じて関係機関と連携を図り、不安感や負担感の軽減に努めることができました。	1 内容を変えずに継続	生活安心課
81	ひとり親家庭等に関する相談	母子・父子自立支援員による相談対応や支援制度の利用をすすめ、ひとり親家庭等の自立に向けた支援を行う。	母子・父子自立支援員 2名 相談対応件数 2,028件	1 当初の計画通りに進展した	ひとり親家庭等に対する多様な相談に対して、他機関との連携を図りながら相談支援にあたることができた。	1 内容を変えずに継続	子ども家庭課
82	成年後見制度利用支援	成年後見制度の利用相談や周知・啓発についてNPO法人に委託し、制度の利用促進を図る。	成年後見センターもだまへの事業委託にて、成年後見制度の普及啓発と利用相談支援を行った。 出前講座：5回 相談件数：91件	1 当初の計画通りに進展した	成年後見制度の周知と利用促進が図れたため。	1 内容を変えずに継続	長寿いきがい課
83	総合相談事業	各中学校区ごとに地域包括支援センターを設置し、地域の高齢者やその家族等に対して在宅介護等に関する総合的な相談に応じ、各種の保健・福祉サービスが総合的に受けられるよう関係機関と調整し、在宅生活の支援を行う。	高齢者本人や家族、地域のネットワークを通じて、地域包括支援センターの3職種が総合相談支援を行った。 【地域包括支援センター相談延べ件数】 18,037件	1 当初の計画通りに進展した	高齢者の心身や家族の状況などについて実態把握・相談を行うことにより、適切なサービスの利用や地域の見守り、関係機関につなげることができた。	1 内容を変えずに継続	地域保健課

③ 民間団体との連携強化

・自殺対策を効果的に推進するために、自殺対策に積極的な役割を担っている自死遺族会、断酒会、精神障害者家族会、いのちの電話等の活動を支援し、民間団体との連携・協働を推進する。

具体的な取り組み名		令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
84	自死遺族会、断酒会、いのちの電話等の民間団体の活動を支援し、連携・協働を推進する	各団体において、どのような取り組みをされているのか情報収集するとともに、自殺対策推進会議において意見交換する。 各団体の取組において、啓発等協力する。	自殺対策推進会議：2回開催 各団体の取り組みについて情報収集を行い、パンフレット等を窓口を設置し、広報で周知した。	1 当初の計画通りに進展した	自殺対策推進会議において、各団体の取り組みについて情報共有を行うとともに自殺対策について意見交換を行った。各団体の取り組みにおいて、啓発等協力した。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
85	精神保健啓発委託事業（精神障害者家族会との連携・協働）	精神障害者が安心して暮らせる地域づくりに関わる講演会を開催する。実施は、草津市精神障害者家族会ひまわりの会へ委託して行う。	計画通り業務委託し、今年度は委託先のひまわりの会の30周年事業として、精神保健啓発上映会を開催した。 上映会 日時：令和元年9月14日(土) 第1部 ドキュメンタリー映画「オキナワへいこう」映画の上映 第2部 大西暢夫監督のトークショー 60分 参加者：260人 14 / 16 ページ	1 当初の計画通りに進展した	参加者も多く、また、映画の上映、トークショーともに、精神障害者が安心して暮らせる地域づくりの啓発について効果があったと考える。	2 対象者や実施方法を変更して継続	障害福祉課

④ 各関係機関や福祉分野での人材育成の実施

・行政、関係機関の職員、ケアマネジャー等の相談窓口担当者に対し、相談窓口等での適切な対応ができるよう、研修を実施する。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
86 市職員への人権研修、管理者研修等	職員研修の実施や相談体制の整備を通じて、各自が他の職員等の自殺のサインに気付けるような労務管理に努める。	職員（部下）等の自殺のサインに気付ける、風通しの良い職場環境を構築するよう人権に関する研修や管理職を対象とした研修を実施した。 また、ハラスメントに関する相談体制の整備を行った。 【人権・同和問題職員研修】 開催回数：4回 参加者：426人 【人権・同和問題管理職研修】 参加者：14人 【心の健康づくり研修】 参加者：36人（管理職向け）	1 当初の計画通りに進展した	研修受講により、他者を思いやる気持ちや風通しの良い職場環境に関する意識の醸成を図ることができ、相談窓口（内部相談員および外部相談員）を設置することにより、相談体制を構築することができた。	1 内容を変えずに継続	職員課
87 庁内全職員対象ゲートキーパー養成研修	ゲートキーパー養成研修の開催（初級編、ステップアップ編） 対象：庁内職員	ゲートキーパー養成研修 初級編、ステップアップ編、上級編の開催 講師：CBTセンター 西川公平 所長 参加者合計 155人	2 概ね順調に進展した	ゲートキーパー養成研修は4回実施することができたが、ステップアップ編の新規受講者は目標値(50人)に満たなかった。	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
88 市民等対象のゲートキーパー養成研修への関係機関等の職員の参加推奨	ゲートキーパー養成研修の開催 2回 対象：市民、関係機関等 人権セミナーと共催(1回)	ゲートキーパー養成研修 人権セミナーと共催で1回開催 もう1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したが、開催準備は行い、市内医療機関や小中高校、市関係機関等にチラシ・ポスター等を配布し、参加を呼び掛けていた。	2 概ね順調に進展した	実施はできなかったが、市民対象のゲートキーパー養成研修への関係機関の職員の参加推奨を行うことができた。	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
89 支援関係者による事例検討会	事例検討会の開催 対象：庁内外支援担当者	ケースによっては、保健所の事例検討会の活用や、精神保健福祉センターの事業協力を活用して事例検討会を行った。	1 当初の計画通りに進展した	各関係機関において、適切な支援ができるよう、支援関係者による事例検討会を適宜実施することができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

⑤ 相談窓口担当者等支援者のこころのケアへの取組

・相談窓口担当者のこころの健康を維持するため、事例検討や支援の振り返り等を行うなかで、担当者のメンタルヘルスケアについて学ぶ機会を持つ。

具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和2年度に向けて	課名
90 研修会等へ参加呼びかけ （児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会、スクールカウンセラー等活用事業担当者会議等） （再掲）	児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会やスクールカウンセラー等活用事業担当者会議等への小中学校教員の参加を呼び掛ける。	滋賀県教育委員会が主催する児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会に2名参加した。また、スクールカウンセラー等活用事業担当者会議に9名参加した。	2 概ね順調に進展した	研修に参加することで、子どもへの接し方や聞き取りの方法を学ぶことができた。	1 内容を変えずに継続	児童生徒支援課
91 相談窓口担当者自身のメンタルヘルスケアについての学習機会の設定	ゲートキーパー養成研修や、出前講座等の機会に、自身のメンタルケアについての内容を加える。	ゲートキーパー養成研修会にて、自身のメンタルケアについての内容を加えた。	1 当初の計画通りに進展した	メンタルヘルスケアについての学習機会を設定でき、研修会後のアンケートにおいて、「理解できた」と答えた人が多数を占めた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課

・基本施策（８）遺された人への支援を充実する							
① 遺族等に対する相談体制の充実							
・自死によって遺された人への相談支援を行うとともに、自助グループである自死遺族会等についての情報提供を行う。							
具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和２年度に向けて	課名	
92	こころの健康に関する相談 (再掲)	自死遺族への個別相談を行うとともに、自死遺族会についての情報提供を行う。	こころの健康に関する相談を希望する自死遺族に対し、保健師が個別に電話で相談を実施した。(のべ1件)自死遺族会について情報提供を行った。	1 当初の計画通りに進展した	自死遺族への個別相談を実施し、自死遺族会について情報提供を行った。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
93	【新規】自死遺族会等の情報を遺族に広く届けられるよう大切な人を亡くした人への情報提供リーフレットの作成	関係各課、自死遺族会等とともにリーフレットを作成し、死亡手続き者等に配布する。	リーフレットの作成なし	3 進展は不十分だった	未実施のため	2 対象者や実施方法を変更して継続	健康増進課
② 自死遺族会等との連携							
・自死遺族会等との連携を図りながら、その地域における活動を支援する							
具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和２年度に向けて	課名	
94	こころの健康に関する相談 (再掲)	自死遺族会の活動を支援し、広く広報するとともに、遺族のなかで個別支援の必要な人について、遺族会と連携しながら支援を行う。	滋賀県自死遺族の会のリーフレットを窓口に設置し、広報くさつによる周知啓発を行った。 自殺対策推進会議に参加していただき、活動状況を報告、共有した。	1 当初の計画通りに進展した	自死遺族の会を市広報紙で案内するなど、広く市民に会の存在を啓発することができた。 自殺対策推進会議に参画いただき計画推進に生かすことができた。	1 内容を変えずに継続	健康増進課
③ 学校等での遺された周囲の人の心理的影響への支援							
・子ども・若者の自死は遺された周囲の人への影響が特に大きいため、教育機関等と連携し、遺された人を支援する							
具体的な取り組み名	令和元年度実施計画	令和元年度実績	令和元年度実施評価	令和元年度実施評価の選択理由	令和２年度に向けて	課名	
95	スクールカウンセラー等活用事業 (再掲)	スクールカウンセラーを草津中学校区2人、高穂中学校区1人、老上中学校区1人、玉川中学校区1人、松原中学校区1人、新堂中校区1人、志津小学校1人、草津第二小学校1人、計9名配置し、不登校やいじめをはじめとする問題行動に対応する。	29と同じ	29と同じ	29と同じ	29と同じ	児童生徒支援課
96	こころの健康に関する相談 (再掲)	33と同じ	33と同じ	1 当初の計画通りに進展した	33と同じ	1 内容を変えずに継続	健康増進課